



ちしゅう

2023年度 学校だより
令和5年10月26日
千歳小学校 臨時号

歴史と伝統 未来へつなぐ

私たちは 誇り高い
千歳小学校の子どもです

か し こ く
や さ し く
た く ま し く

学ぼう

つなごう
やりぬごう



千歳小 HP/URL…<https://chitose-edu.jp/chitose-e/>

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

保護者の皆さまには、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、千歳市の結果公表と合わせ、その概要をお知らせいたします。

この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の改善を図るとともに、学校における学習指導に役立てることを目的としております。本校では今回の調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けたプランを作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んで参ります。

I. 教科に関する調査結果

国 語

⇒ 全国の平均正答率と比較して「やや高い」という結果でした。

①学習指導要領の内容別の結果

すべての領域において全国平均を上回りました。

話すこと・聞くこと

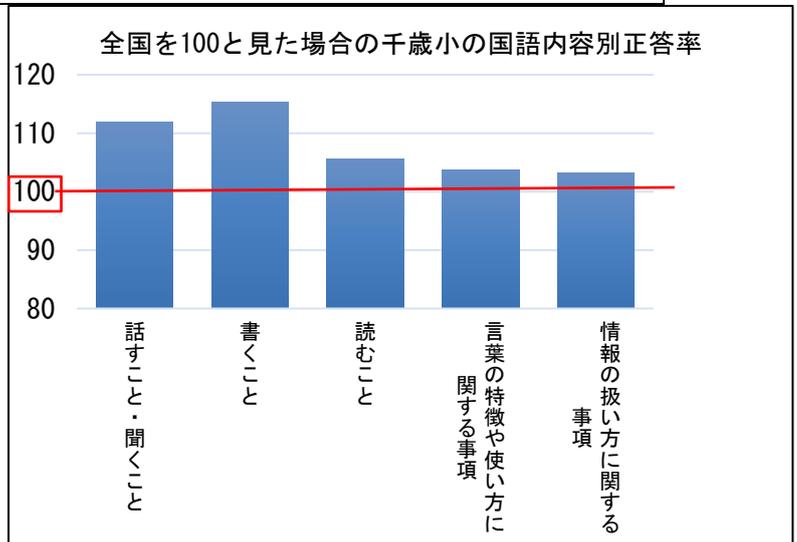
この領域の問題は全部で3問。必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題が2問、目的や意図に応じ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題が1問出題されました。3問ともよくできていました。

書くこと

この領域の問題は1問。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題が出題されました。全国の正答率が26.7%と正答率の低い問題でした。⇒次頁①参照

読むこと

この領域の問題は3問。文章と図表を結び付けて必要な情報を得る問題、理解したことに基づいて自分の考えをまとめる問題についてはよくできていましたが、中心となる語や文を見つけて要約する問題ではやや課題が見られました。



言葉の特徴や使い方に関する事項

この領域の問題は5問。漢字を文の中で正しく使う問題が3問、文章の種類と特徴についての問題が1問、敬語の使い方について1問出題されました。同音異義の漢字についてはやや課題がありました。

⇒次頁②参照

情報の扱い方に関する事項

この領域の問題は2問。情報と情報の関連づけ（原因と結果、図などによる語句と語句との関係の表し方）を理解する問題が出題されました。

○ ○ ○ (条件)

○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。

○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。

○ 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

このように取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【カード①】

6月24日

- 思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
- このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいさようするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日

- 雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
- 調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
- 調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日

- 学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
- 雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日

【農家の石山さんのお話】

- 雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
- 雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- 農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

- 雑草取りの回数を増やす。
- 雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】

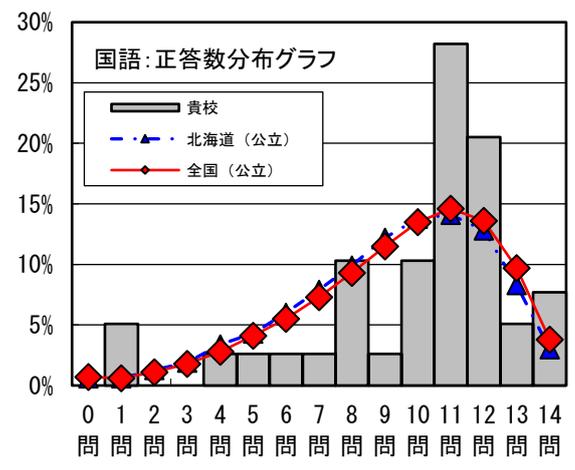
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

①全国の正答率 26.7%の問題
 「条件付きの記述問題」です。全国学力・学習状況調査では定番の問題です。条件をすべて満たさないと正解にはなりません。

②漢字を文の中で正しく使う問題
 「ア いがい → 以外」の全国正答率が52.8%。本校でも「意外」と書いてしまう子が多数いました。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

②正答数の分布
 正答率が4問以下の割合が7.7%います。一方、正答数が10問以上の児童の割合は、全国を上回っています。いわゆる伸びしろ層が一定数いますが、中間層は比較的少なく、定着層が多くいるため、全体的に見るとしっかりと学力が定着していると言えます。



★学校ではこのような指導をします★

- 話す学習では、自分の意見を述べるだけでなく、友だちの意見をよく聞いて理解し、自分の意見と比較するなど、対話を通して考えを深める話し合い活動に取り組みます。
- 書く学習では、様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けて捉えることや、読みやすさを考えて漢字を正しく書くこと、文章の種類とその特徴を理解する活動に取り組みます。
- 読む学習では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることや、目的に応じて、中心となる語や文を見つけて要約する活動に取り組みます。
- キーワードや文字数を意識した条件付き記述問題に対応できるよう、類似問題に取り組みます。

算 数

⇒ 全国の平均正答率と比較して「やや高い」という結果でした。

①学習指導要領の領域別の結果

「数と計算」以外の領域において全国平均を上回りました。

数と計算

この領域の問題は6問で、この領域のみ正答率は全国とほぼ同様（下位）という結果でした。一の位が0の二つの2位数についての乗法の問題で全国より正答率が下回りました。また、 $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題は全国的にも正答率が5割を切っており、課題が見られました。

⇒次頁①参照

図形

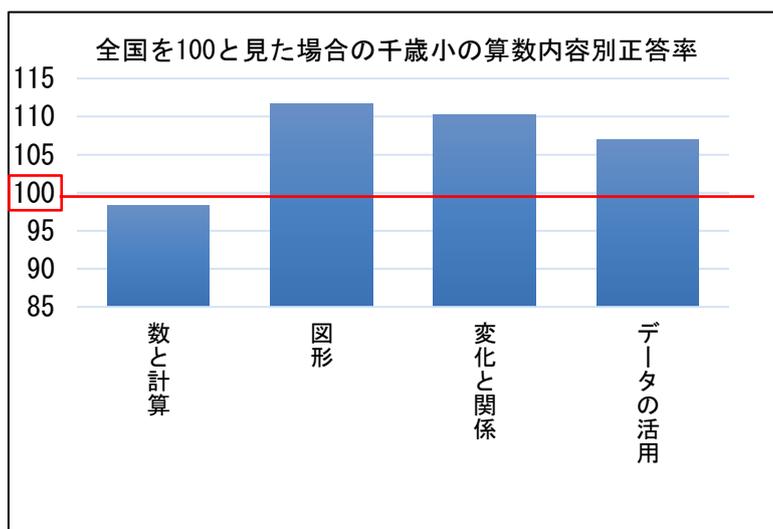
この領域の問題は4問。本校の正答率は全国を上回っていましたが、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題は全国の正答率が20.8%と正答率の低い問題でした。⇒次頁②③参照

変化と関係

この領域の問題は4問で、正答率は全国とほぼ同様でした。百分率で表された割合については全国の正答率を大幅に上回っており、しっかり理解が深まっていることがわかりました。

データの活用

この領域の問題は3問。「以上」の意味、複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み取り、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることのいずれも正答率は全国を上回りました。



(4) けんたさんは、 $66 \div 3$ の筆算について、次のように図を使ってふり返りました。

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下ののように考えることもできます。

【 $66 \div 3$ の筆算】	【けんたさんの説明】
<p>手順1</p> $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \\ \end{array}$	<p>10を⑩、1を①で表して、60について考えます。</p>
<p>手順2</p> $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$	
<p>手順3</p> $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$	<p>6について考えます。</p>
<p>手順4</p> $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$	
<p>手順5</p> $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$	

$$\begin{aligned} 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\ &= \overset{\text{あ}}{60} \div 3 + \overset{\text{う}}{6} \div 3 \\ &= \overset{\text{い}}{20} + \overset{\text{え}}{2} \\ &= 22 \end{aligned}$$

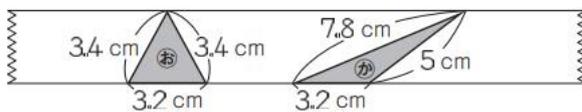
【 $66 \div 3$ の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。一つ選んで、その記号を書きましょう。

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 6 \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

①全国の正答率 47.6%の問題
 ・筆算の仕方を説明した図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題です。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

②全国の正答率 20.8%の問題
 「選んだわけ」の記述では、①底辺の長さが等しいこと②高さが等しいことの2つの条件を満たすことが必要です。

③全国の正答率 24.9%の問題
 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題です。

(3) えいたさんたちは、下のようなつくり方で三角形をつくります。

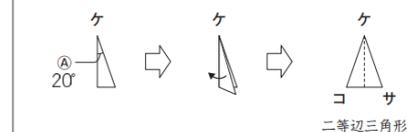
【えいたさんのつくり方】

- ① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。
- ② 右の図のように、折り目はししを点ケとします。
- ③ 折って重ねたまま、点ケを通るななめの直線で切ります。
- ④ 開くと三角形ができました。

ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の㊸の角の大きさをそれぞれがう大きさにしました。



わたし
ゆいな
私は、㊸の角の大きさを 20° にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。

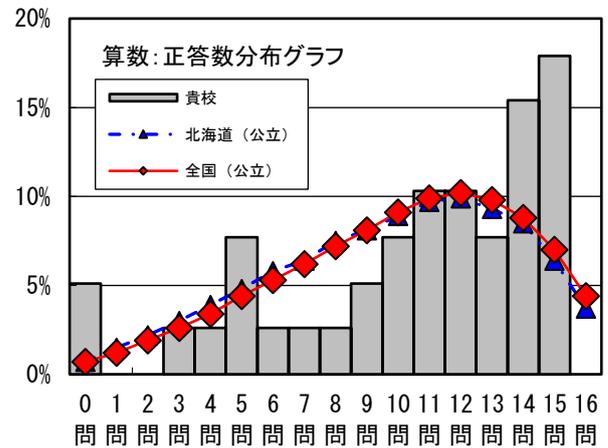


わたし
わたる
私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、㊸の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、㊸の角の大きさを何度にするればよいですか。
 答えを書きましょう。

②正答数の分布

4問以下の割合は国語より多く、10.2%います。一方、正答数が12問以上の児童の割合は51.2%と半数を超えています。国語に比べると伸びしろ層の割合が若干高めですが、中間層は比較的少なく、定着層が多くいるため、全体的に見るとしっかりと学力が定着していると言えます。



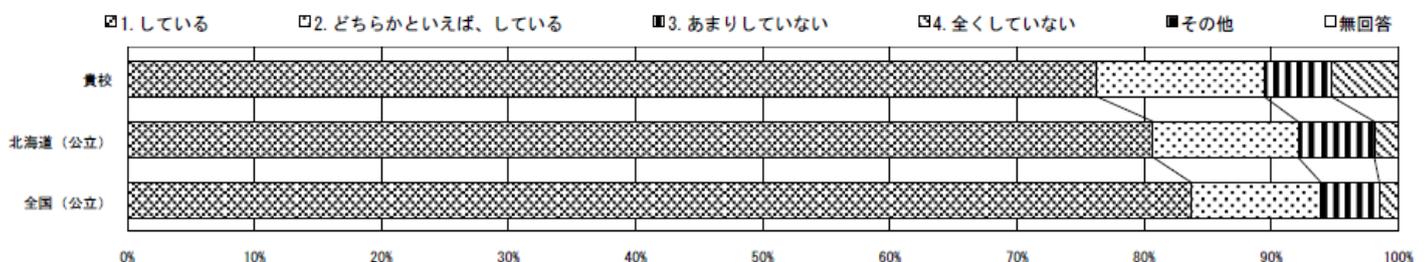
★学校ではこのような指導をします★

- 計算の学習では、計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について十分理解させます。その上で計算に習熟したり、計算を工夫したりする学習に取り組みます。
- 図形の学習では、実際に動かしたり描いたりする活動など、具体的操作活動を大切にし、図形の意味や性質について理解させます。また、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察したりすることができる力を身に付けさせます。
- 変化と関係の学習では、伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見つけていくことができるようにします。また、見つけた規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができる学習に取り組みます。
- 目的に応じてデータを収集し、表やグラフに表したり、読んだりすることや、割合などで表されたデータの特徴を理解できるようにします。また、学習したことを日常生活の場面と関連づけて考える学習に取り組みます。
- 習熟度別指導による指導や学習支援員の活用、重点単元を指定して学習する等、一人一人の力を伸ばす取組を充実させます。

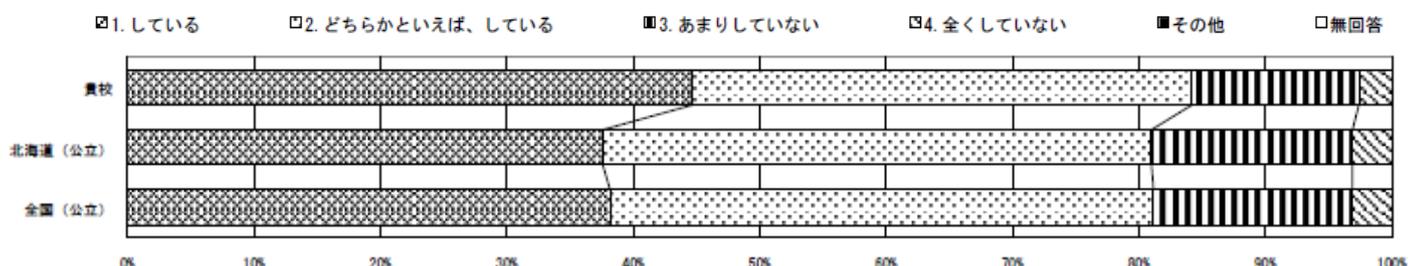
Ⅱ. 学習状況調査 (児童質問紙) から

基本的な生活習慣

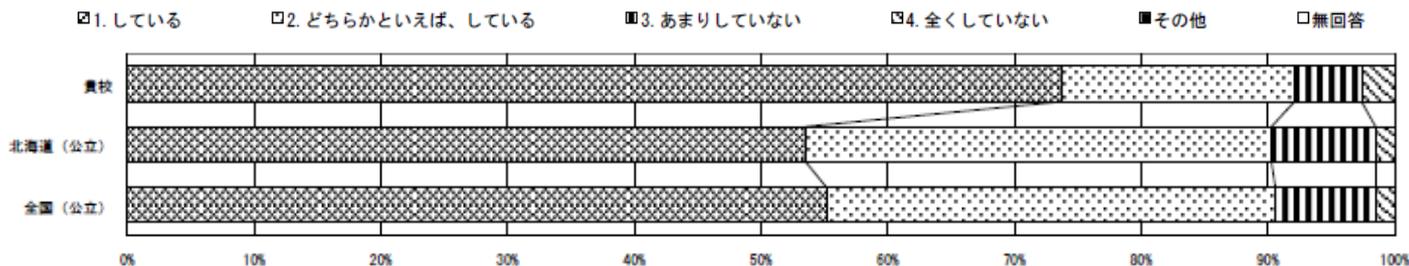
○朝食を毎日食べていますか。



○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



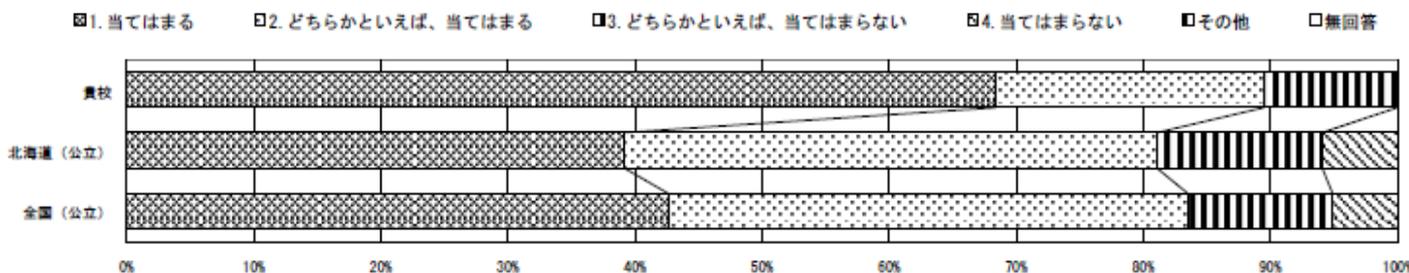
○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



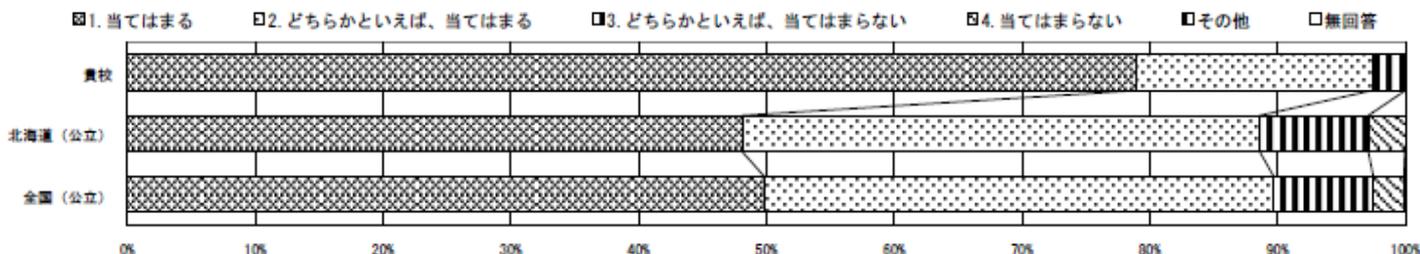
朝食を毎日食べている児童は全国を下回っています。毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている児童は全国を上回っています。すべての質問において「4.全くしていない」と回答している児童が若干名いることがわかります。規則正しい生活はすべての基本となります。保護者の皆さまには、今後も「早寝・早起き・朝ごはん」へのご協力をお願いします。

自己有用感・達成感

○自分には、よいところがあると思いますか。



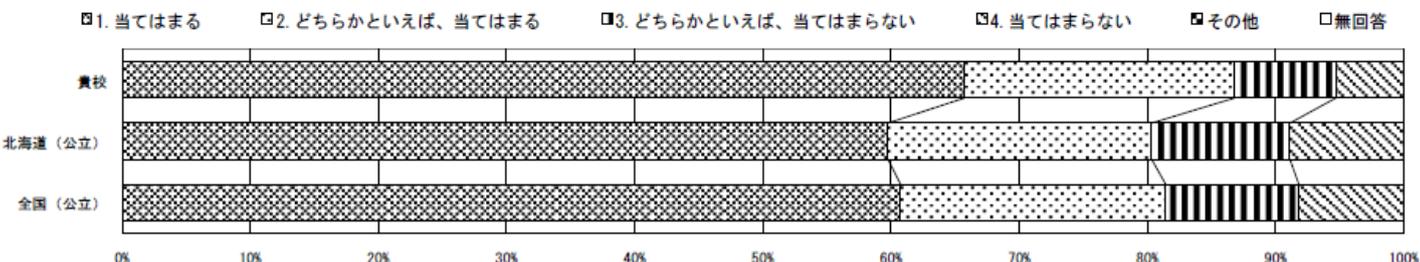
○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



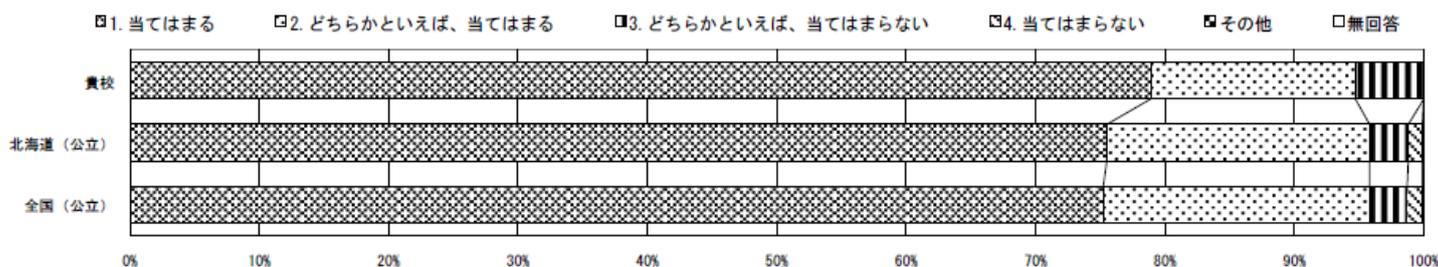
いずれの質問についても「1.当てはまる」と回答した児童は全国を大きく上回りました。昨年度まで新型コロナウイルスの影響で、活動に制限があった中にもかかわらず、一人一人が様々な経験を積み、自分に自信を持って活動することができるようになってきました。また、学年・学級の中でも「自分が認められている」と心理的安心感を持って過ごしていることがわかります。今後も子どもたちが生き生きと活躍できる学校づくりに努めて参ります。

挑戦心・夢

○将来の夢や目標を持っていますか。



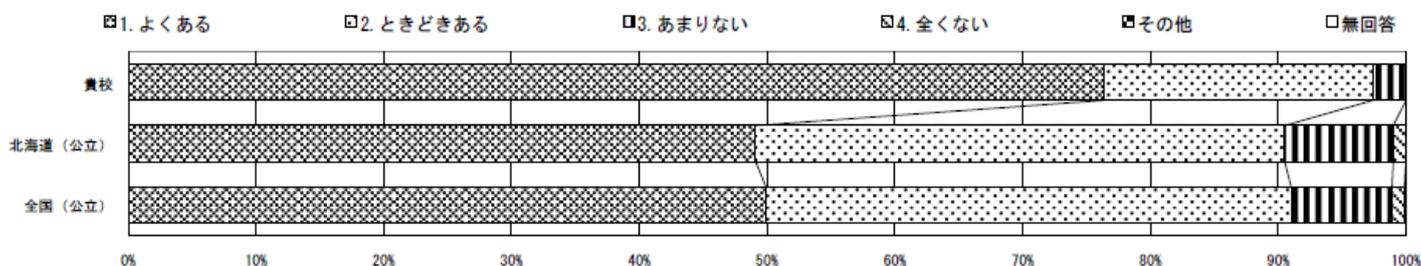
○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



いずれの質問についても「1.当てはまる」と回答した児童は全国をやや上回っています。前述の「自己有用感・達成感」が基盤となって、児童一人一人が将来の自分のイメージを前向きに捉えていることが分かります。一方、2つの質問共に「3.どちらかというと当てはまらない」と回答している児童も若干おられます。引き続き、キャリア教育等を通して、将来の自分像をイメージしながら様々な活動に取り組むことの重要性を指導していきます。

幸福感

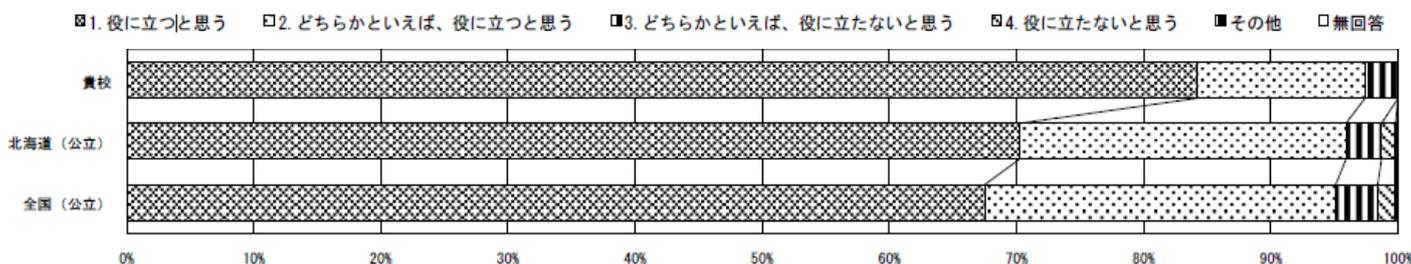
○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



今年度初めて導入された質問項目で、いわゆる「ウェルビーイング」に関する質問です。「ウェルビーイングとは「身体的・精神的・社会的に良好で満たされた状態にあること」とされています。「1.よくある」と回答した児童は全国を大きく上回っています。学校の中でも児童一人一人が幸せな気持ちになり、持てる力を存分に発揮できるよう支援して参ります。

ICT を活用した学習

○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



「1.役に立つと思う」と回答した児童が8割を超えています。これからの社会では必要不可欠となるICT機器をいかに学習の中で有効活用するかを常に意識しながら、授業づくりに努めて参ります。併せて、情報モラルやICTリテラシーを身につけさせる教育にも注力して参ります。

今後も学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」の実現を目指し、教育活動を推進して参ります。